

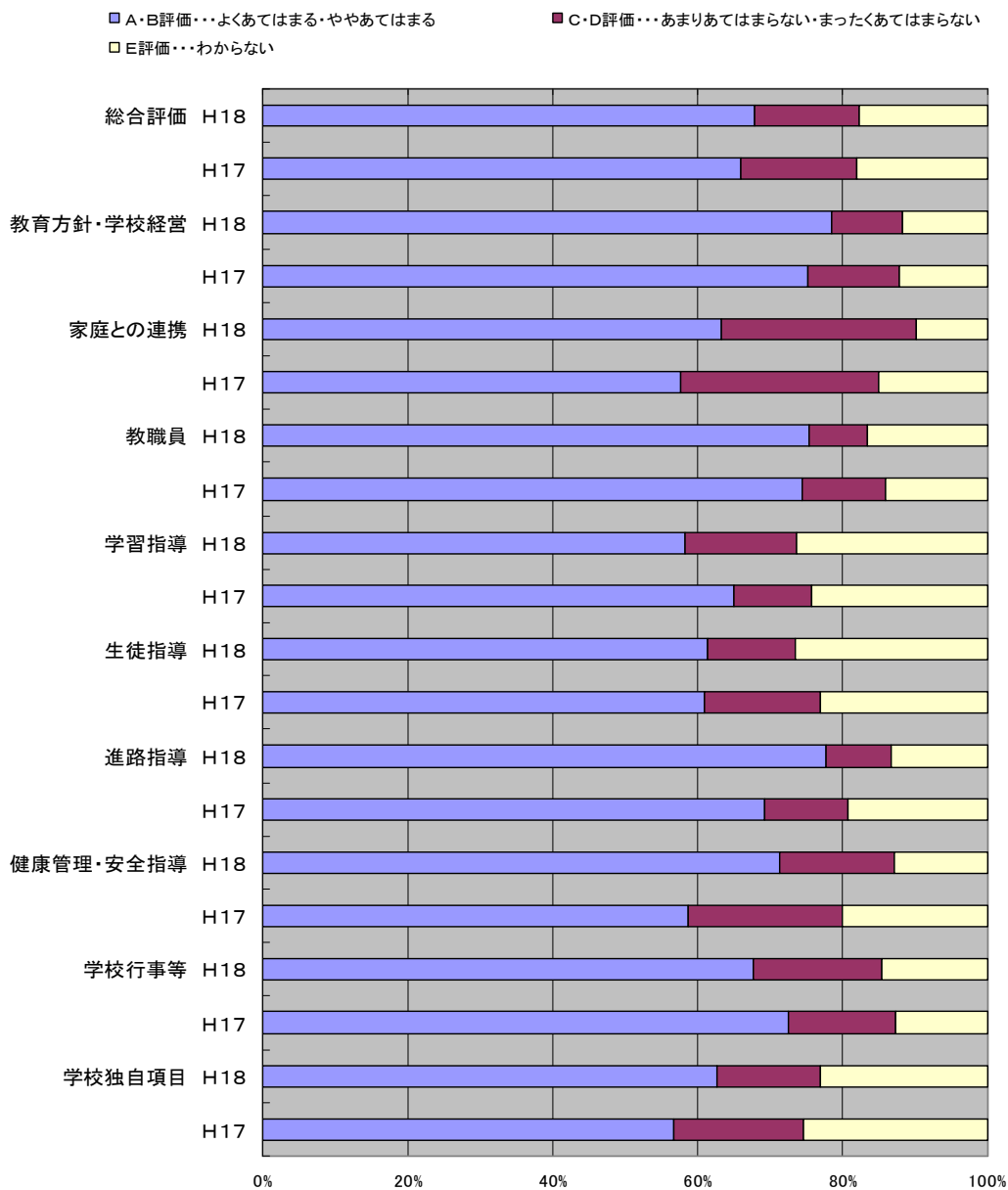
平成18年度 岐阜県立可児工業高等学校 外部評価結果

一年生保護者	40名	各クラス6名の抽出と PTA役員さんに依頼
二年生保護者	43名	
三年生保護者	52名	
学校評議員	5名	
計	140名	評価を依頼
132名の皆様から回答をいただきました。 (回答率 94.3%)		

評価方法	肯定的回答
	・よくあてはまる
	・ややあてはまる
	否定的回答
	・あまりあてはまらない
	・まったくあてはまらない
その他	
	・よくわからない

1. 外部評価（保護者）

平成18年度 外部評価（保護者）



2. 各問に対する回答の状況

項目	問数	年度	肯定的回答の項目数				否定的回答の項目数	
			80%以上	60%以上	50%以上	50%以下	20%以上	30%以上
1. 教育方針 学校経営	5	18	●●	●●●				
		17	○○	○○○			△	
2. 家庭との連携	4	18		●●●	●		▲	▲▲
		17		○○○		○	△△	△
3. 教職員	4	18	●●	●●				
		17	○○	○○				
4. 学習指導	4	18		●	●●●		▲	
		17		○○○	○			
5. 生徒指導	4	18	●		●●●			
		17		○○	○	○	△	
6. 進路指導	4	18		●●				
		17		○○				
7. 健康管理 安全指導	2	18	●	●			▲	
		17	○			○		△
8. 学校行事等	5	18	●	●●	●●		▲	▲
		17	○	○○○	○			
9. 学校独自	5	18	●●		●	●●	▲	
		17	○		○	○○○	△	

3. 「%の高い項目」

「肯定的回答」 80%以上の項目
<p>1. 教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針や指導の内容には共感できる ・学校は自主性・創造性のある生徒を育てようとしている
<p>3. 教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を訪問したり、電話した時の学校職員の対応（明るい挨拶や丁寧な話し方）が適切である ・学校の教師は子ども達の教育に熱心に取り組んでいる
<p>4. 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は高校生としてマナーや社会規範を身に付けさせることや、相応しい服装、頭髪等の指導の徹底を図っている。
<p>7. 健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では生徒の安全・衛生面に配慮し、交通事故や痴漢防止などの安全指導をしている
<p>8. 学校行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では部活動が活発に行われている

<p>9. 学校独自</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得や技術の習得に生徒が主体的に取り組めるよう支援がなされている ・学校では子供に関する人権・プライバシーが守られている
<p>「否定的回答」 30%以上の項目</p>
<p>2. 家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている ・学校は保護者が授業を参観する機会等をよく設けている <p>8. 学校行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備は学習環境の面でほぼ満足できる
<p>「わからない」回答 30%以上の項目</p>
<p>4. 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている <p>5. 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ではいじめや差別を許さず厳しく対応している ・学校では体罰の防止に努めている <p>9. 学校独自</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設設備や教師の持つ知識・技術が学校内外のいろいろな場で活かされている ・学校では教師と生徒の対話の時間が十分に確保されている

4. まとめ

①分析結果

- ・全体をとおして多くの肯定的な回答が得られた。特に「教育方針への共感」、「教職員の態度」「生徒指導」「安全指導」「部活動や資格取得」での取組が成果を上げ、保護者や地域の間に着実に理解されつつあることが伺われる。
- ・本校では、生徒指導部や教務部が中心となって「スローガン・キャンペーン」等で具体的な取組みを月毎や学期毎で提示している。生徒・職員が一体となった「わかりやすい、取組やすい」習慣づくり、意識づくりを今後も推進し理解を得たい。
- ・保護者の意識や価値観、学校教育に対する期待感の多様化に伴い、情報伝達（判断材料の提供）の方法等に弱さが感じられる結果となった。
- ・同様に「わからない」の回答では、学校生活に関する内容で、「生徒と先生」の様子が保護者からは見えにくく、十分に伝わっていない、お互いのコミュニケーションから生じる内容と読みとれる。

②課題

- ・学校からの情報面では、地区別懇談会や学年通信・PTA会報等で情報提供の方法や内容を検討してきているが、十分とは言えなかった。今後も懇談会の持ち方や資料提供など、工夫が必要で内容も含めさらに推進すべきある。
- ・生徒を通じて行う方法から、情報機器等を利用した新たな情報提供を考えたい

③対策

- ・情報提供では、学校開放の推進に加え、意思伝達の場になるよう改善したい。具体的には、学校行事の運営方法等の検討、各種通信や広報誌等などにおいて保護者参加の編集などの機会、HPの充実やITの活用などに取組たい。
- ・本校では生徒会・保護者・職員の三者が一体となり、年5回「合同・通学指導」を実施している。この事業は生徒指導と渉外部の保護者連携として位置づけ、終了後は、懇談会を実施し実態把握に努めるとともに、参加していただいた保護者の授業参観も行っている。こうした機会を媒体として、より連携を深め「開かれた学校」にしていきたい。